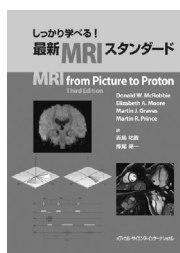


[評者]
山田雅之
藤田医科大学医療科学部
放射線学科教授



しっかり学べる！ 最新 MRI スタンダード 百島祐貴・押尾晃一 訳

●B5 頁408 2018年10月
定価：本体 7,000 円+税
[ISBN978-4-8157-0137-6]MEDSi 刊

私が診療放射線技師を目指して本邦初の技師養成大学教育に学んだのは、まもなく終わろうとしている平成の時代が始まった年のことである。そして、先見の明をもってその教育カリキュラムに開講された学科目『磁気共鳴論』は、MRIの基盤原理である核磁気共鳴現象やその医学応用であるMRI検査を体系的に学ぶ、わが国で初めての本格的な講義だったと記憶する。しかし、当時MRIという言葉すらまったく聞き覚えのない初学者の私たちが、網羅的に『磁気共鳴論』を学べる書籍はごくわずかであり、手に取る教科書は難解な物理学や量子力学の数式の記述から始まるとも敷居の高いものであった。

あれから30年、MRI装置は国内の医療施設に次々と設置され、今やMRI検査は誰もが一生に一度は受ける一般的な画像検査となった。私は本書に目を通し、そのようなMRI検査に携わる全ての医療専門職、あるいは医療専門職を目指して全国の養成機関で学ぶ多くの学生にとって待望の書籍であると確信した。

まず本書を開くと、すぐにMRIに関わる略語集が掲載されている。MRIでは、同じ撮像方法やパラメータであっても、装置メーカー毎に呼称や略語が異なるため、特にMRIの初学者を混乱させてきた。巻頭の略語集には、そのような実情に鑑みた著者・訳者らの心配りを強く感じる。なにより、この略語集は初学者のみならず、母校で『磁気共鳴論』の教鞭を執る立場となった今の私にとっても、大変貴重でありがたい資料なのである。

さて、私はMRIを初めて学ぶ学生に対して、どのよ

うに『磁気共鳴論』を講義すれば“MRIアレルギー”を防げるのか、長年に渡って自問自答を繰り返してきた。そして、たどり着いた結論は、“MRIの面白さ”、言い換えれば、“MRIはすごいのだ”という事実を、わかりやすく十分に伝えた上で、本格的に原理や検査技術を教授するということである。本書では、まさに『MRIはおもしろい』というMRIの歴史がわかりやすく記述された第一章からスタートし、まずは“MRIで得られる素晴らしい画像を見てみよう”、“まずはMRI装置がどのようなものかを知ろう”といったスタンス、すなわち“from Picture to Proton”という本書のコンセプトが見事に具現化されている。さらに、本書は記述される内容が入門(基礎)編とエキスパート編に大きく分かれるが、全体を通して掲載される豊富な画像や図説の多さに驚かされる。まるでMRIの百科事典のようであり、MRIの全てを網羅したと言っても過言ではない本書の内容は、MRI装置の安全管理や画質の評価、臨床から研究用途に至る幅広い、そして最先端のMRI技術について、偏ることなくわかりやすく記述されており、これまでMRI初学者の学習意欲を低下させた文字列や数式だけの説明に終始した上述の教科書とは全く対照的である。

私は、医療専門職を目指してこれからMRIを学ぼうとしている医学・医療系学生をはじめ、MRI装置の日常管理やMRI検査における装置操作を担当する診療放射線技師、MRIによる画像診断を担う医師、そしてMRIに興味関心を抱くすべての方に、自信をもって本書を推薦したい。